

絵の真偽——画像の使用と画像の内容

松永伸司（東京藝術大学）

発表資料 URL

レジュメ：https://researchmap.jp/muk6sxs78-1918131/#_1918131

PPT 資料：<https://www.slideshare.net/zmzizm/truth-in-pictures20171007>

用語の整理

画像 (picture)：絵や写真。ただし、今回は写真は基本的に扱わない。絵は、ドローイング、ペインティング、版画、CGなどをすべて含む。

描写 (depiction)：画像に特有の仕方では何かを表象すること。

描写内容 (depicted content)：画像が描写するもの (what a picture depicts)。画像が表す内容にはいろいろな種類があるが (図像学的内容、表出内容、象徴的内容、etc.)、この発表では描写内容以外の内容は扱わない。

問題設定の変更

変更前：絵の真偽に関する問題を論じる。

変更後：絵を使った主張に関する問題を論じる。

主張型 (assertive) 発語内行為

Searle (1979) による特徴づけ：

1. 当の発話表現する命題が真であることに発話者をコミットさせる。
2. 発話者は、その命題が真であるという信念を実際に持っている。
3. その命題が世界に合致しているかどうかによって真か偽かが査定可能である。

主張型発語内行為には、狭義の主張、報告、示唆、警告、自慢など、およそ何か事象であることを受け手に伝える意図をもってなされる発話のすべてが含まれる。

絵を使った主張

先行研究：Novitz (1977)、Kjørup (1978)、Eaton (1980)、Korsmeyer (1985)、岸 (2008)、etc.

事例：報道画像 (ボストン虐殺の絵、法廷画)、証言画像 (桜田門外の変の絵、目撃者が描く容疑者の似顔絵)、商品を描いた広告画像、肖像画、歴史画、etc.

絵を使った主張に関する問題

1. 絵を使った主張では、必ずしも描かれた内容がそのまま主張されるわけではない。これをどう説明するか。
2. その都度の使い次第で主張内容が変わるケースと、絵それ自体が一定変わらない主張内容を持つと言えるようなケースがある。このちがいをどう説明するか。

主張内容の理論

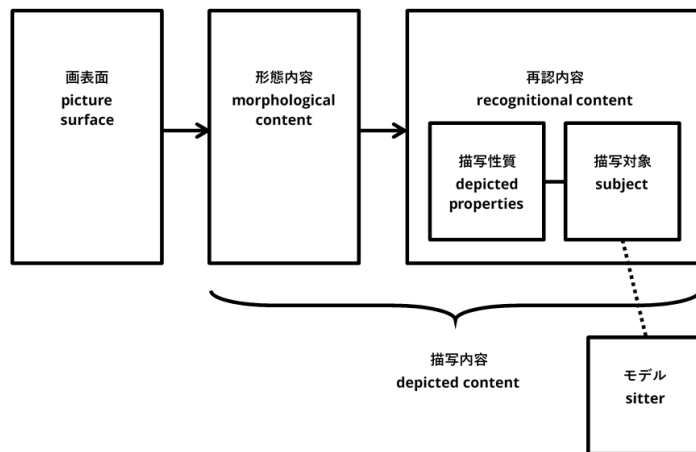
ごく常識的な見解によると、主張の内容は命題である (Searle 1979)。

ごく常識的な見解によると、命題 (単称命題) は以下の 2 つの側面からなる。

指示 (reference)：特定の個体を選び出すこと。

述定 (predication)：その個体に特定の性質を帰属させること。

言葉による主張でも絵による主張でも、指示と述定は成り立っている。



描写内容の理論

描写内容の先行理論 (Goodman 1976; Beardsley 1981; Wollheim 1987; Lopes 1996; Hopkins 1998; Kulvicki 2006; Hyman 2012; Kurg 2014; 高田 2014–2015; Nanay 2016; 清塚 2017; etc.) を整理すると、描写内容を十分に記述するには、以下の概念群が必要であることがわかる (整理の詳細は松永 (2017) を参照)。

形態内容と再認内容

形態内容：平面的な色と形の配置のうち端端に見てとれる三次元的な色と形の配置。画表面に帰属される二次元的な性質とは区別される。

再認内容：形態内容が具体的に意味づけられた／再認された／概念化された内容。典型的には、「何が描かれているか」という問いの答えになるもの。ここでの「再認する (recognize)」は、「目で見てそれと見分ける」とおおよそ同義 (Kulvicki 2014: 32ff.)。再認内容は、さらに描写性質と描写対象という 2 つの側面に区別できる。

描写性質と描写対象

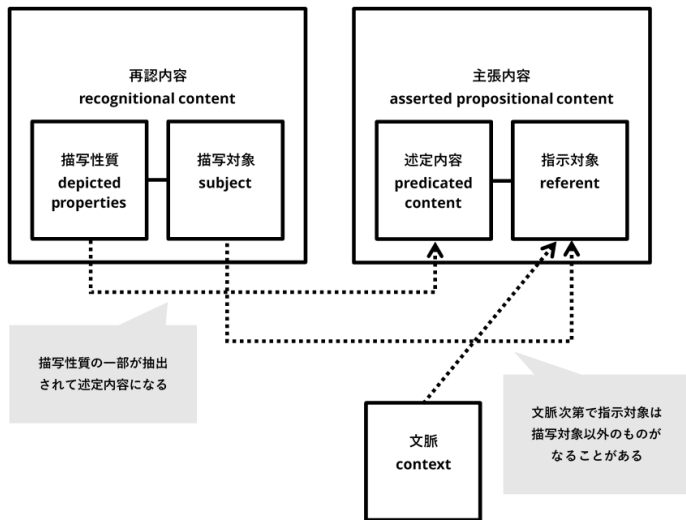
描写性質：絵の対象に帰属される性質として何が描かれているか。描写性質の密度は、絵によってさまざまである。たんに〈赤い〉〈りんごである〉〈丸い〉といった粗い密度で事柄の性質を描く絵もあれば、〈どの部分がどのように赤いか〉〈どんな種類のりんごであるか〉〈どんな丸さであるか〉を詳しく描く絵もある。

描写対象：描写性質が帰属される個別的な対象として何が描かれているか。言い換えれば、絵が何についてのものであるか。しばしば絵の「主題」(subject) と呼ばれる (Lopes 1996)。描写性質 P と描写対象 S の関係は、〈P であるものとして S を描く〉という関係にある。

描写対象とモデル

描写対象：描写性質が帰属される個別的な対象。描写対象は、絵のモデルとは概念的に異なる。

モデル：その絵が実際に何を見て描かれたか。もちろん、モデルと描写対象が同じであるケースは数多いが、異なるケースも少なくない。



描写内容と主張内容の関係

描写内容における描写性質と主張内容における述定内容の関係、描写内容における描写対象と主張内容における指示対象の関係をそれぞれ考えることで、絵を使った主張に関する 2 つの問題が見通しよく整理される。

問題 1 の説明

絵を使った主張においては、描写性質が述定内容を作り出すのに使われるものの、それがそのまま述定内容になるわけではない。通常は、描写性質の一部が抽出されて述定内容になる。

描写性質がどこまできめ細かく述定内容として抽出されるかは、当の絵を使った主張がどれだけ細かい述定内容を求めているかによる。そして、多くのケースでは、それほど細かい述定内容は求められない。それゆえ、描写性質の一部だけが述定内容になる。

問題 2 の説明

絵それ自体が一定の主張内容を持つと言えるケースでは、描写対象がそのまま指示対象になり、描写性質の重要な部分の多くがそのまま述定内容になる。言い換えれば、主張内容のかなりの部分を描写内容が決定する。

一方、その都度の使い方次第で主張内容が変わるケースでは、指示対象も述定内容も描写内容にほとんど制限されない。指示対象は自由に変えていいし、描写性質のほとんどを述定内容に組み込まなくてもよい。そのようなケースでは、当の主張の文脈が、述定内容の抽出度合いや指示対象を決定する。

ある絵がいずれのタイプの絵であるかは、その絵がどういう意図のもとに作られたか、その絵がどういう絵画ジャンルに属するかなどによるだろう。事実を伝えようとする意図をもって描かれた絵や、典型的に事実を伝えるために使われる絵のジャンルに属する絵は、ふつうそれ自体として一定の主張内容を持つと言える。

References

Beardsley, M. C. 1981. "Representation in the Visual Arts." In *Aesthetics*, 2nd edition, 267–317. Indianapolis: Hackett. (『視覚芸術における再現』相澤照明訳、西村清和編訳『分析美学基本論文集』所収、勁草書房、2015)

Eaton, M. 1980. "Truth in Pictures." *Journal of Aesthetics and Art Criticism* 39(1): 15–26.

Goodman, N. 1976. *Languages of Art*. 2nd edition. Indianapolis: Hackett. (『芸術の言語』戸澤義夫・松永伸司訳、慶應義塾大学出版会、2017)

Hopkins, R. 1998. *Picture, Image and Experience: A Philosophical Inquiry*. Cambridge: Cambridge University Press.

Hyman, J. 2012. "Depiction." *Royal Institute of Philosophy Supplement* 71: 129–150.

岸文和. 2008. 『絵画行為論——浮世絵のプラクティス』醍醐書房.

清塚邦彦. 2017. 『フィクションの哲学』改訂版、勁草書房.

Kjørup, S. 1978. "Pictorial Speech Acts." *Erkenntnis* 12(1): 56–71.

Korsmeyer, C. 1985. "Pictorial Assertion." *Journal of Aesthetics and Art Criticism* 43(3): 257–265.

Kulvicki, J. V. 2006. *On Images: Their Structure and Content*. Oxford: Oxford University Press.

Kulvicki, J. V. 2014. *Images*. Abingdon: Routledge.

Kurg, R.-N. 2014. "Edmund Husserl's Theory of Image Consciousness, Aesthetic Consciousness, and Art." PhD diss., University of Fribourg.

Lopes, D. M. 1996. *Understanding Pictures*. Oxford: Oxford University Press.

Nanay, B. 2016. *Aesthetics as Philosophy of Perception*. Oxford: Oxford University Press.

Novitz, D. 1977. *Pictures and Their Use in Communication*. The Hague: Martinus Nijhoff.

松永伸司. 2017. 「描写内容の理論」9bit (blog), September 28, 2017. Accessed October 6, 2017. <http://9bit.99ing.net/Entry/85/>.

Searle, J. R. 1979. "A Taxonomy of Illocutionary Acts." In *Expression and Meaning*, 1–29. Cambridge: Cambridge University Press. (『発語内行為の分類法』野村恭史訳、山田友幸監訳『表現と意味』所収、誠信書房、2006)

高田敦史. 2014–2015. 「図像的フィクショナルキャラクターの問題」*Contemporary and Applied Philosophy* 6: 16–36. Accessed September 25, 2017. <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/226263>.

Wollheim, R. 1987. *Painting as an Art*. Princeton: Princeton University Press.

Figures

Paul Revere, *Boston Massacre*, 1770.

Unknown, *Michael Jackson in Court*, 2005.

蓮田市五郎《桜田門外之変図》1860.

Jacques-Louis David, *Sacre de l'empereur Napoléon Ier et couronnement de l'impératrice Joséphine dans la cathédrale Notre-Dame de Paris, le 2 décembre 1804*, 1808.

LINE Corporation 《疲れたコニー》2011.

Canaletto, *Piazza San Marco: Looking South-East*, 1735–1740.

Paul Delaroche, *Napoléon à Fontainebleau, le 31 mars 1814*, 1845.

Sidney Strube, *Bulldog Churchill*, 1940.